

口腔生化学分野担当教授の選考について

平成28年3月31日付で定年退職された織田公光名誉教授の後任として、英国・レスター大学講師・照沼美穂博士が選考されました。照沼先生は

九州大学歯学部卒業後、同大学院修了後、米国、英国で活躍されています。発令は平成28年8月1日付け。

歯学部50周年記念式典および祝賀会の開催について

歯学部では、学部創立50周年記念事業が7月16日に開催され、式典及び祝賀会が行われました。

歯学部は、昭和40（1965）年4月に日本海側唯一の国立大学歯学部として設置され、地域で活躍する人間性豊かな歯科医師をはじめとした高度専門職業人の養成、最先端の歯科医学・医療の研究開発とその臨床応用などを通じ、環日本海における歯科医学・口腔保健医療福祉をリードする拠点として実績を残してきました。

平成16（2004）年には超高齢社会を迎えるなかで必要性が高まっている「食べる」ことや口腔機能の維持向上という視点から保健・医療・福祉を総合的にマネジメントできる専門家を養成することを目的とした四年制の口腔生命福祉学科を設置し、現在では大学院口腔生命福祉学専攻博士前・後期課程が開設されました。

また、平成27年9月には約17500平米の総合研

究棟（歯学系）の大型改修工事が竣工するとともに、最先端の教育研究機器が整備されました。

記念式典には約120名が出席し、前田学部長の式辞に続き、高橋学長、寺門成真文部科学省医学教育課長（代理：島居剛志医学教育課副課長）、田口円裕厚生労働省歯科保健課長、北窓隆子新潟県副知事、五十嵐治新潟県歯科医師会長から祝辞が述べられました。引き続き祝賀会が行われ、篠田昭新潟市長、荒川正昭元学長の祝辞に続いて、下條文武前学長の乾杯で懇談に入りました。祝賀会では、新潟県三条市の無形文化財鋳起銅器玉川堂から創立50周年を記念した銘板の贈呈が行われました。参加者は有松同窓会長からの古い写真をプロジェクターに投影した歯学部のあゆみについての説明を懐かしみ、始終和やかに学部創立50周年を祝い最後に小林医歯学総合病院副病院長による挨拶で締めくくられました。



式辞を述べる前田歯学部長



参加者の方々からの鏡割り

歯学部銘板の寄贈について

歯学部創立を記念して、新潟大学歯学部銘板が歯学部50周年記念祝賀会にて玉川堂七代目玉川基行様より、寄贈されました。玉川堂は、日本の金属加工業者の1つで、日本国内の地場産業として有名な新潟県燕市の金属加工業の中でも唯一、1枚の銅板を鋸で叩き起こして銅器を製作する「鋸起銅器」の伝統技術を二百年弱に渡って継承している老舗企業です（ウィキペディア：<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%8E%89%E5%B7%9D%E5%A0%82>）。当主の玉川基行様がGコード科目「食べる」の講師を務められていることから、この度の寄贈となりました。「新潟大

学歯学部」の揮毫は花田晃治名誉教授によるもので、書の筆致が精緻に再現されています。



新潟大学歯学部創立50周年記念誌「21世紀は『食べる』時代 『食べる』を考えたことありますか」の上梓

歯学部創立50周年を記念し、「21世紀は『食べる』時代 『食べる』を考えたことありますか」を出版しました。この本は、歯学部が新潟大学のすべての学生向けに開講している教養科目（G

コード科目と呼んでいます）「食べる」の講義内容に加え、本歯学部の活動にご協力いただいている方々が新たに書き下ろしたものとなっています。この「食べる」の講義は野田 忠 新潟大学名

◆ ◆ ◆

誉教授ならびに花田晃治 新潟大学名誉教授のご尽力により開講され、開講以来、学生の高い人気と評価を得てきました。この記念誌は、「食べる」と食文化、「新潟を食べる」、「食べるの科学」、「食べるを支える歯学」の4章から構成され、主として第1、2章では新潟地域で活躍されている方々に、第3、4章では新潟大学歯学部で教鞭を執っている教員に執筆をお願い致しました。新潟の多様な食文化とそれを支える方々のご活躍を堪能し、また歯学の新たな役割を理解できる内容となっています。



ハプティックデバイスを用いた シミュレーター機器の設置

本学歯学部では、診療参加型臨床実習の更なる充実に向けて、1年次における早期臨床実習から、各科の基礎実習、5年次の総合模型実習へと至る連続した臨床教育の充実を推進してきました。歯科医学教育においては知識の習得とともに、手技の修練が必要とされます。技術の習得と向上には反復練習が不可欠であるものの、高速切削器具を使用する際の安全性や、使用する機材の確保の点から、これまでは歯の切削を伴う技能系実習を早期に開始することは困難でした。今回導入したSIMODENT®（シモデント・デンタルトレーナー）は仮想現実（バーチャル・リアリティ）の技術を応用し、コンピューター上で歯の切削を体験できるシステムです。本システムは歯の切削感を忠実に再現するばかりでなく、ミラーを使用した鏡像の確認も可能で、一部の実習では切削の正確さを数値化して評価する事も可能となっています。本システムで使用されている技術はパイロット養成のためのフライト・シミュレータ等にも用いられているものであり、現実には危険を伴

う体験を仮想現実の世界において安全にかつ反復して行うことができる事が最大のメリットです。本システムの本格的な設置は国内初であり、診療参加型臨床実習へとつながる早期臨床教育の更なる充実とその波及効果が期待されます。



図1 シモデント 外観

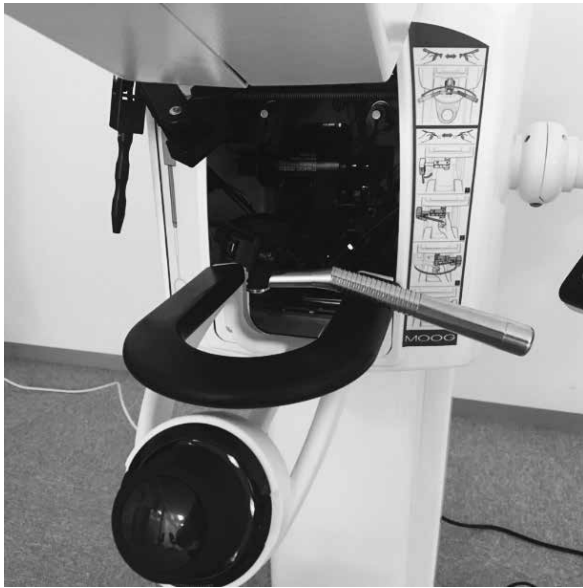


図2 シモデント 操作作用ハンドピース



図3 シモデント 作業画面

新潟高等学校特別講義の開催について

新潟県立新潟高等学校は、「歯学に関する専門知識を得、医療に関する視野を広める。最先端の研究や技術の息吹に触れ、学習意欲を高める」ことを目的として、「新潟大学歯学部見学」を実施しています。今回、平成28年8月3日に、同校理数科メディカルコースの高校2年生41名ならびに教諭2名が新潟大学歯学部を訪問しました。

歯学部長の前田健康教授の挨拶の後、微生物感染症学分野の寺尾豊教授による「口の健康と微生物学：観て考えて」、摂食嚥下リハビリテーショ

ン学分野の井上誠教授による「摂食嚥下障害とその治療」の2つの模擬講義が開講されました。また、新潟高等学校出身で新潟大学歯学部歯学科を卒業し、現在、臨床研修医として診療に従事している2名の若手歯科医師から、なぜ歯学部に進学したか、大学生活や将来の夢などについて話がありました。高校生たちは、講義や高校OBとの懇談を通して、自分の進路や適性について深く考え、将来、医療職を目指す気持ちを新たにしようでした。



平成28年度オープンキャンパスの 開催について

8月9、10日の2日間に亘り、全学主催のオープンキャンパスが開催されました。当日、33℃を超えるうだるような猛暑の中、県内外から280名の参加者がありました。小野学務委員長による挨拶、

全体説明のあと、泉入試委員長による入試説明、井上教授による模擬講義、卒業生による学部紹介、デンタルトレーナー体験等が行われました。

